

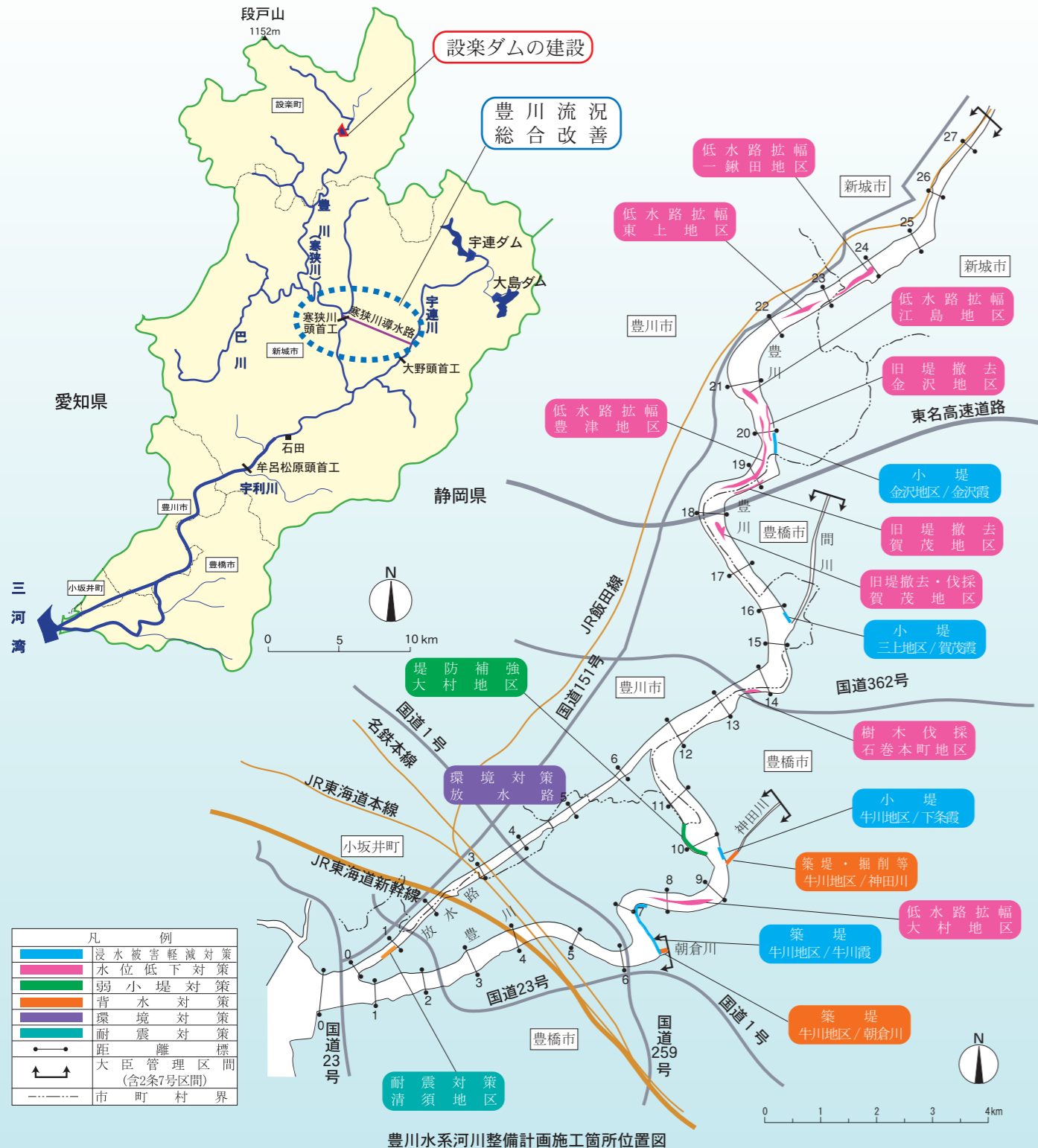
あたらしい豊川づくり

豊川水系河川整備計画の目標達成に向け、それぞれの目標が調和しながら達成されるよう、次の施策を総合的にすすめます。

- 霞堤対策 ● 河道改修及び河川環境の整備と保全 ● 内水対策
- 耐震対策 ● 豊川流況総合改善 ● 設楽ダムの建設

河川整備の計画箇所

豊川の大管区間においては、次の各箇所が必要な対策を実施します。



霞堤対策

下条、賀茂、金沢の3霞堤は、完全に締め切ると上下流への影響が大きいため、土地利用規制等とあわせて小堤を造るなどして浸水被害を軽減します。牛川霞堤については、締切ることによる影響がなくなったことから、周辺の土地利用計画等と調整の上、堤防を造り、浸水しないようにします。さらに、河道改修と設楽ダムによる洪水調節により洪水時の水位を下げ、浸水しにくいようにします。

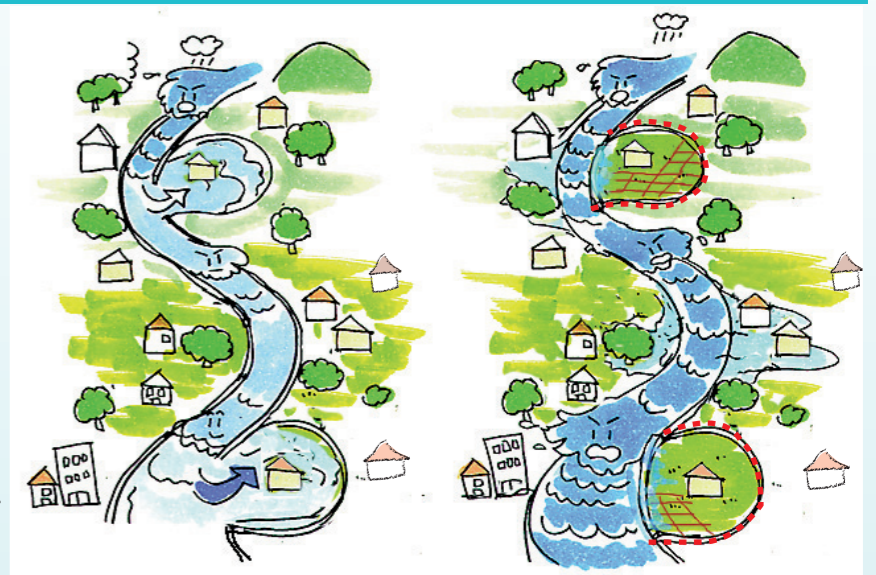
※霞の小堤は現地状況によって変更することがあります。

豊川の霞堤

江戸時代に吉田の城下町を洪水から守るため、霞堤と呼ばれる不連続な堤防が設けられたと言われています。洪水時には、この不連続な箇所から一時的に洪水が溢れることで、上下流の水位上昇が防がれたのです。

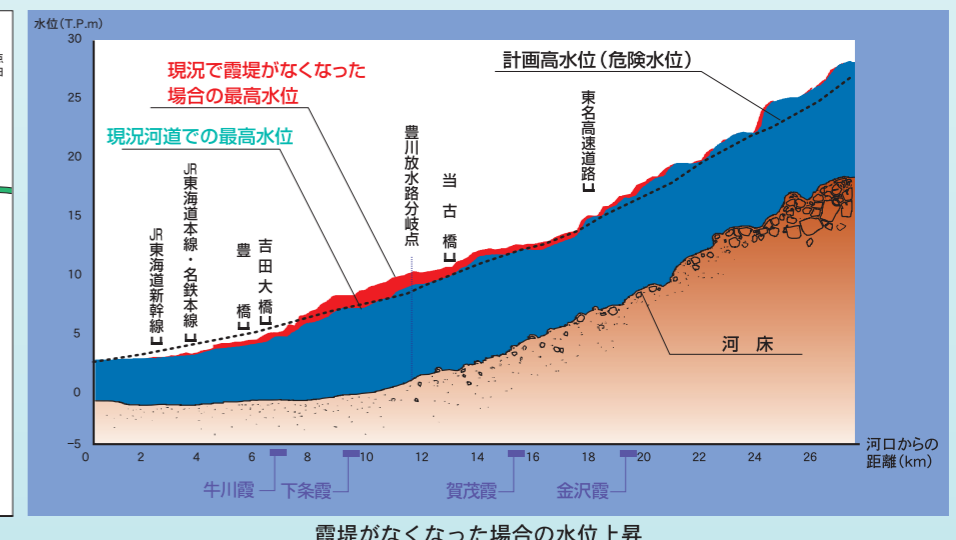
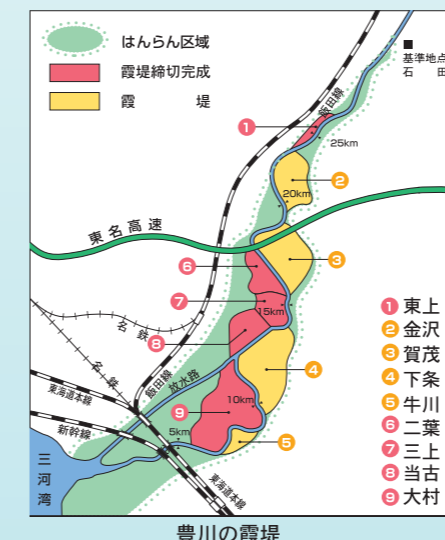
昭和30年代には9箇所ありましたが、現在は左岸側の牛川、下条、賀茂、金沢の4箇所が残っています。

霞堤地区では、堤防が不連続なため、それほど大きくない洪水でも浸水し、被害を被っています。



■霞堤があると
洪水時に霞堤地区内に洪水が溢れることにより、上下流の水位上昇が小さくなります。

■霞堤がなくなると
洪水が河道に集中して流れるため、上下流の水位が上昇して、いろいろなところで氾濫するおそれがあります。

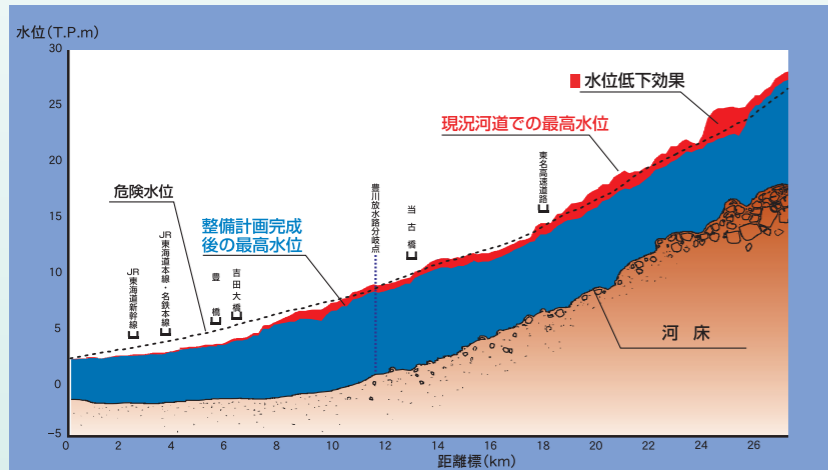


河道改修及び河川環境の整備と保全

洪水時の水位を低下させるため、低水路を拡げるとともに、洪水の流れの妨げとなっている樹木の伐採を行います。また、今も河道内に残る古い堤防を撤去するとともに、堤防の幅が不足している箇所を補強を行います。

支川の朝倉川や神田川の合流点付近では、堤防を造るなどの背水対策を行います。

河道改修の効果は、改修した区間とその周辺範囲に限定されますが、ダムによる洪水調節はダム下流すべての区間において水位を下げる効果があります。豊川では洪水時の水位が全川にわたって高いので、河道改修とダム建設を組み合わせることで洪水時の水位を低下させます。



昭和44年8月洪水が再来した時のダムと河道改修による水位低下効果

●豊橋市大村



改修前



改修後（モンタージュ写真）

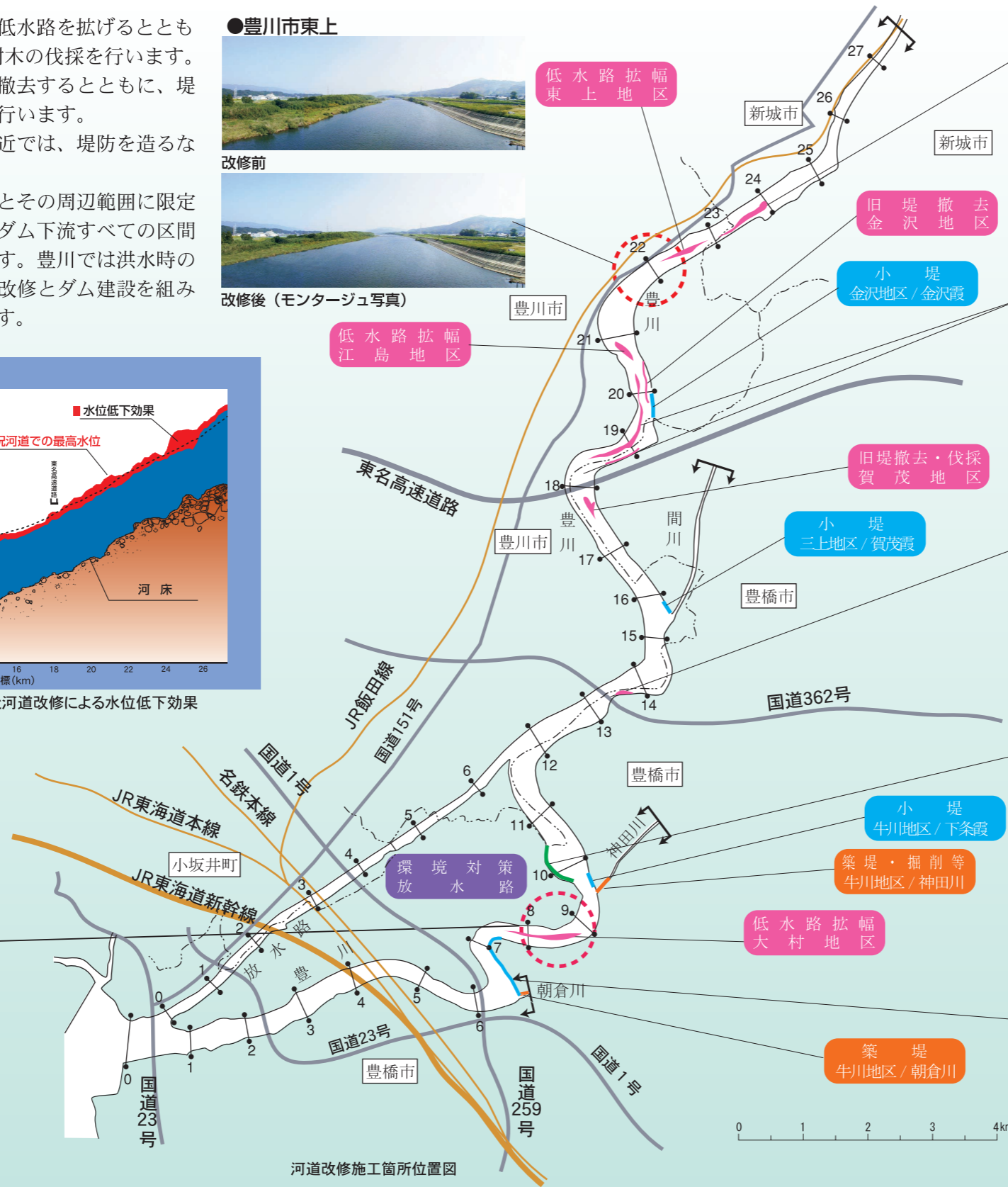
●豊川市東上



改修前



改修後（モンタージュ写真）



河道改修施工箇所位置図

(※計画断面形状は必要に応じて変更することがあります。)

